

アモス・ナマンガ・ンゴンギ氏を迎えて

(横浜 WFP 応援団メンバーとンゴンギ事務局次長との懇談より)

‘97. 10. 10

於：WFP 日本事務所

■ンゴンギ氏あいさつ

国連や各国政府よりも民間支援は大切だ。今は政府を通じて活動しているが、これから、民間と一緒に活動できるのは大変うれしいことだ。

食糧援助の対象者は、子供と女性を中心としてやっている。食糧を介して女性に対して行われる援助だ。

WFPの事務局長は女性(Ms. キャサリン・バティニーニ)であり、事務局長が女性であることを誇りに思う

今回、日本政府が支援金を増やしたのは、草の根のサポートがあつてのこととと思っている。

■質疑応答

*今回視察された北朝鮮の実情は？

今まで視察したどこの国よりも大変だ。苦難を乗り越える状況がわからない北朝鮮の人々は、政府を頼り切っている。人々が自分達の手で何とかするという意欲がない。工場も停止し働くところがない。

農業の現状：農業施設がひどい、灌漑ができていない。政治的に解決を図らなければならない。国を開いて人々に国外の様子を見せるのも一つの方策だ。

現在が最悪だとの認識がなく、もう少しよくしたいと個々には考えている政府の人たちが多い。

*食糧以外の支援は可能か

農業について技術的なアドバイスや機材が必要だ。購入資金がない。

自国が一番だという、プライドを持っているので、他国で研修などをやり(外国へ招へい)比較するチャンスを与えてやりたい。

状況を把握していく考えがなく、条件整備の考えが育っていない。

彼らが受け入れる方法を探しながら、支援することが大切だ。

世界的な支援の型ができないで、このままだと国が崩壊するかもしれない。

軍隊の行動が気がかりだ。強者が弱者の状況を決めてしまう。

*北朝鮮援助はどのようにして行われているのか。

北朝鮮は特別な事例で、政府より依頼があつた。

WFPは現状調査なしでは支援しない。

1995年には、洪水被害による援助要請があり、子供たちへの援助をした。

1996年のFAO、WFOの調査野結果、前年よりひどかった。再建前の被害で食糧不足の見積りが100万t、そのうち70万tをやった。その後自力で食糧を買うことも、近隣との貿易もできなかつたので、23万t追加援助した。

1997年3月事務局長の訪問：非常に悪化していたため、33万tの援助へと増額した。全土の6才以下の子どもへ270万t、病院施設へ100万t、洪水による破壊工場再建に賃金として食糧援助もした。

8月干ばつ被害、125万t不足 台風被害(西側)防波堤決壊により、お米が200万tもダメになった。また、災害のため、肥料や機器にまわす資金がなくなった。

援助物資の配布は、スタッフ14人でやっている。港への配布先は、北朝鮮政府と合意が必要だ。WFP職員が調査にいけない地域では配布を行なわないことを明確に伝えている。スタッフは、計画通りの配布の確認をする仕事をしているが、今のところ計画通り配布されていることを確認している。信頼性確保のため、これから、10人のスタッフを追加する予定だ。

***WFPの援助活動はどういうものであるのか。**

活動地域にはスタッフがいる。現在88カ国。本部ローマには300人の職員(専門職)、現地には600人の職員(専門職)。専門職をサポートしてくれる人が現地には3,000人以上いる。WFPの食糧援助は、最も貧しく援助が行き届かないような地域にターゲットを絞り、目標を持ってやっている。状況は国々で違うので職員数も違う。インフラのときは政府へ依存をし、モニタリングを行なう。緊急の食糧援助は、WFP独自でやる。

***他機関との協力はどのように？**

FAO(技術開発計画)、ユニセフ(パートナーとして学校、病院への供給)、難民高等弁務官(要請に従って援助を行なう)、ユネスコ(教育)、WHO(医療、健康)、ILO(労働)などと提携して活動しているが、その他の専門機関(世界開発銀行、農業開発銀行)やNGOとの協力もある。

***WFPの食糧援助は、世界の食糧政策に影響を及ぼすのでは？**

政府に援助すると、政府が市場で売るので、市場の価格が下がり、農家にダメージを与える。二国間援助が行われていたときに、ある国の政府に降ろすと、必要な人には届かず市場売買が発生したこともあった。

WFPは一般的に、影響があるものにはしない。市場購買力のよい人々に支援する。市場(価格)破壊はなく、いい効果がでてきている。成功例として、(パキスタン、バングラデシュ、インド)では、1960年代 耕地3~4%。援助は、年間2,000万tだった。現在 耕地30~35% 援助は年間76万t('96)で済んでいる。このように、Food for Workの結果、生産が増えている。

また、緊急援助の場合は、死から抜け出すことができるし、働けるようになる。食糧援

助よりむしろ、安い食糧を他国から輸入することによって、農業や市場経済は破壊されるのであって、WFPの援助により破壊されたことは一度もない。

*日本の農業について

日本の米は、1 tにつき2、300ドルの保障を政府がしている。これは、世界市場の10倍の値段だ。食糧輸入は年間500億ドルだが工業製品などで同額の輸出がある。保護政策はそのうち消滅してゆくと思う。現在農業をしている人の高齢化や、消費者の意識も変わってきているから農業以外の生産資源があれば、それで生産をあげたらいい。世界中が工業国になったら大変だと思うが、土地が広大にある国は農業から手を引かないと思う。土地の有効利用を考えると、日本は工業生産でいいのではないか。農業経済学では、なるべく安い土地で作るのが基本だからだ。

*民間活動の今後の展開について

栄養教育は、ゆっくりとしかやれない。'85年に(WFPの仕事で)エチオピア視察に行き、その映像を見た子どもが、父親(ンゴンギ氏)の仕事を見ることによって、6才のときに自分から「食べ物を残しません」と言った。視覚に訴えることは、大切なことだ。

民間の人達と対話できたのはWFPでは初めてのことだ。ODA予算が600億USドル、20億USドルをWFPの援助に使用している。10USドルでは、10人の子どもがまかなえる。これは生きて使えるお金だ。WFPの'97年度予算額は、14億ドルだが、これではまだ不足だ。横浜市のWFP応援団の活動は、世界の先駆的なものになるので、これからも皆さんとともに活動してゆきたい。